

## 2 サタデーセミナー

### 2.1 防災科学実験「サバメシ」(家庭分野)

#### (1) 研究開発の概要

独立行政法人防災科学技術研究所の納口恭明先生に「防災科学実験 サバメシ」と題して、災害が起きてライフラインが止まったなかで、温かい食事の貴重さ、そしていかにして温かいご飯を炊くかという技術について実験を通してご講義をしていただいた。

また、昨年度に引き続き、災害の起こる仕組みについても模型を使ってわかりやすく紹介してくださった。

#### (2) 研究開発の経緯

先生は、Dr.ナダレンジャーに扮して全国各地で自然災害の科学実験教室を展開されており、生徒に防災についての意識を向上させるために、自然災害について、またその中で生活するための技術について、科学的理論に基づいた体験型のご講義を依頼した。

#### (3) 仮説(ねらい、目標)

昨年3月に起きた東日本大震災は私たちの記憶に新しい。本校のある一宮市も東南海地震が発生すると以前から言われている。災害はいつ襲ってくるかわからないなかで起きた東日本大震災の現状を見て、防災についての意識を向上させ、またそれに関連する対策等について考えさせる一つの機会とする。

#### (4) 研究の方法および内容

##### ア 対象生徒

- 1、2 学年希望者33名  
(男子15名、女子18名)

##### イ 実施日時

平成23年12月3日(土) 11時30分～15時30分

##### ウ 実施場所

本校 生物講義室及び外庭、駐輪場

##### エ 講師

防災科学技術研究所 総括主任研究員 納口 恭明 先生

##### オ 実施内容

本年も、防災科学技術研究所の納口先生に依頼し、今回は災害等が起きた時の食糧確保の面から、「サバメシ(サバイバル飯)」を炊く技術について講義と実習をお願いした。事前の打ち合わせで、場所と施設の可能な限り参加者を募集してもよいとの先生のご好意により、生徒33名に加え、教員も10名程度、参加させていただいた。

アルミ缶1つは上蓋だけを缶切りで切りあげご飯を炊く「釜」とし、もう一つにはさらに空気口をカッターナイフで切りあげ「炉」とした。大切な燃料となる牛乳パックは、無駄なく微妙な火力調節ができるような大きさに切った。水加減や火加減のテクニックについて実際に炊飯しながら納口先生から指導をいただいた。4時間があっという間に終わってしまう、充実した実習であった。

#### (5) 検証(成果と反省)

##### ア 事業内容全体の評価

東日本大震災発生して、記憶の新しい時期に実施できて役に立てることができた。さらに実施状況としては雨・寒さなどの過酷な環境の中での実験となり、数時間の間ではあるが生徒たちに避難生活のほんの一部を体験させることができた。



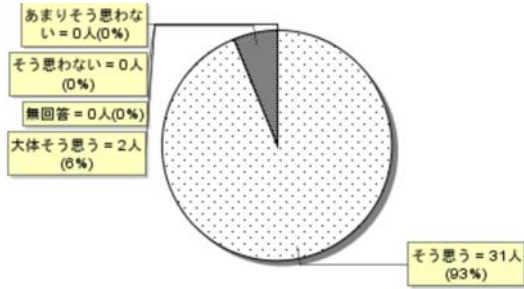
アルミ缶を加工する生徒たち



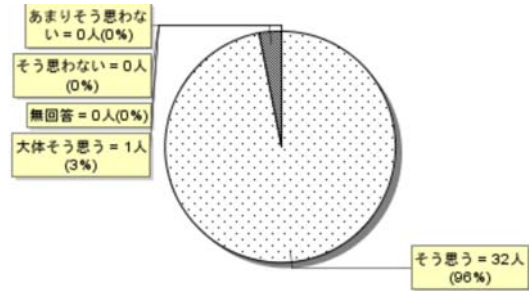
ご飯を炊く生徒と納口先生

## イ 事後アンケートの結果から

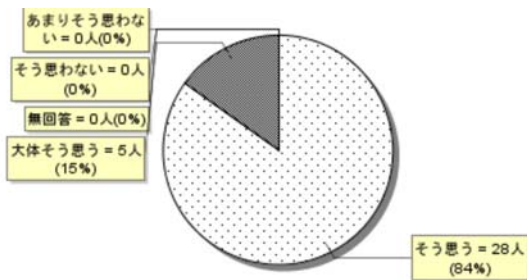
セミナーの内容に興味関心が持てましたか。



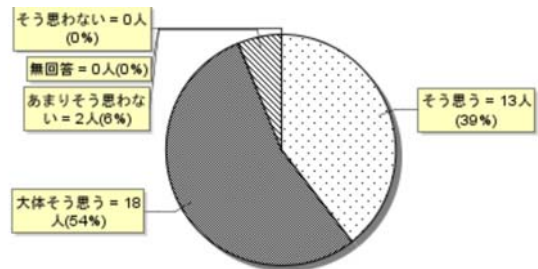
セミナーの内容は理解できましたか。



セミナーの内容は将来役にたつと思えましたか。



セミナーの内容についてさらに深く調べてみたいと思えましたか。



## ウ 生徒の感想から

生徒の感想から、実習に対するねらいは十分果たせたと考えられる。生徒たちの実習についての感想をそのまま掲載する。

- ・最初「サバメシ」と聞いたときは、いったい何をするのかとても不思議でした。そして、実際に話を聞いてやってみるととても面白くて、お米が炊けたのを見た瞬間はとても感動的でした。また、非常時に役立つことが盛りだくさんで、何かあったときは実践してみたいです。
- ・今回本当に参加してみてよかったと思った。納口先生が最初に見せてくれた災害をおもちゃで説明するのもおもしろいなーって思ったし、今回の本題であるサバメシも楽しく作れて味もすごく良かったので、また挑戦してみたいと思いました。今回学んだことを将来何かあった時に思い出して、活用できたらいいなあと思います。



サバメシを試食する生徒

## エ 今後の研究開発の方向

災害に対する準備について普段から意識をし続けることはなかなか難しいものである。今後は住居分野等でも避難生活に対する具体的対策についての講座を設定し、得た知識や技術を授業にも取り入れ、生徒の防災意識を高めることに役立てたい。